作成日：2009年09月25日
改訂日：2023年08月21日

安全データシート（追加情報）

1. 化学品及び会社情報

製品名：日産クリンチャー™ ＥＷ
会社名：日産化学株式会社
住所：東京都中央区日本橋二丁目5番1号
担当部門：農業化学品事業部企画開発部登録グループ
電話番号：03-4463-8310　　FAX番号：03-4463-8331
緊急連絡電話番号：農薬中毒事故時の問合せ先　　公益財団法人日本中毒情報センター

中毒110番	一般市民専用電話 （情報提供料：無料）	医療機関専用有料電話 （一件2,000円）
大阪（365日・24時間対応）	072-727-2499	072-726-9923
つくば(365日・9～21時対応)	029-852-9999	029-851-9999

用途及び使用上の制限：農薬（除草剤）、農薬登録内容以外の使用は不可

本製品に関するその他の情報については、次ページ以降の製品安全データシート（SDS）「クリンチャー™ ＥＷ」（ダウ・アグロサイエンス日本株式会社、改訂日：2020年10月16日、版番号1.8）を参照してください。

安全データシート

ダウ・アグロサイエンス日本株式会社

化学品の名称: クリンチャー™ EW

発行日: 2020/10/16
印刷日: 2020/10/26

ダウ・アグロサイエンス日本株式会社 は、この製品の使用者が、重要な情報を記載しているこの(M)ＳＤＳを熟読され、ご理解されるようお願いしております。この SDS は、職場における人の健康および安全性の保護、環境保護、緊急時の対応を支援する情報を製品の使用者に提供します。製品を使用される際は、主に製品容器に添付されている製品ラベルを参照する必要があります。

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称: クリンチャー™ EW

推奨用途及び使用上の制限
特定用途: 農薬（除草剤）

会社情報
ダウ・アグロサイエンス日本株式会社
100-6110
東京都千代田区永田町 2-11-1 山王パークタワー

会社電話番号	:	03-3519-3190
電子メールアドレス	:	SDS@corteva.com

緊急連絡電話番号

24時間対応緊急連絡先	:	0800-170-5827
緊急連絡電話番号	:	0800-170-5827

2. 危険有害性の要約

GHS 分類
発がん性 - 区分 2
誤えん有害性 - 区分 1
水生環境有害性 短期（急性） - 区分 2
水生環境有害性 長期（慢性） - 区分 2

GHS ラベル要素
絵表示又はシンボル



注意喚起語: **危険!**

危険有害性情報
飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ。
発がんのおそれの疑い。
長期継続的影響によって水生生物に毒性。

注意書き

安全対策
使用前に取扱説明書を入手すること。
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
環境への放出を避けること。
保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

応急措置
飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。
ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察／手当てを受けること。
無理に吐かせないこと。
漏出物を回収すること。

保管
施錠して保管すること。

廃棄
内容物／容器を承認された処理施設に廃棄すること。

他の有害危険性
データなし

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別：混合物

化学名	CASRN	化審法番号	安衛法番号	濃度又は濃度範囲
ブチル=(R)-2-[4-(4-シアノ-2-フルオロフェノキシ)フェノキシ]プロピオナート(別名シハロ	122008-85-9		4-(7)-1745	30.0%

ホップブチル)

ソルベント ナフサ	64742-94-5	3-7	(9)-1700	>= 25.0 - < 30.0 %
2-メチルナフタレン	91-57-6	(4)-80	(4)-80	6.7%
ナフタレン	91-20-3	4-311	(4)-311	3.6%
1-メチルナフタレン	90-12-0	4-80	(4)-80	3.2%
その他の成分	不特定			>= 26.5 - < 31.5 %

4. 応急措置

必要な応急措置
一般的アドバイス:
応急措置担当者は自分の安全確保に注意を払い、推奨されている防護服(耐薬品手袋、飛沫防護)を使用する。ばく露する可能性がある場合は、第 8 項の保護具の情報を参照。

吸入: 新鮮な空気の場所に移動させる。呼吸停止の時は救急隊または救急車を呼び、人工呼吸を施す。マウスツーマウス式人工呼吸を行う時は、レスキュー用保護具(ポケットマスクなど)を使用する。中毒情報センターに連絡するか医師に治療のアドバイスを求めること。 呼吸困難の場合は、有資格者が酸素吸入を行う。

皮膚接触: 汚染された衣類を脱がせる。直ちに皮膚を大量の水で 15～20 分間洗浄する。中毒情報センターに連絡するか医師に治療のアドバイスを求めること。

眼に入った場合: 眼を開いたまま 15～20 分水でゆっくりと優しく洗い流す。コンタクトレンズを装着している場合は、5 分洗眼してからはずし、さらに洗眼を続ける。中毒情報センターに連絡するか医師に治療のアドバイスを求めること。

飲み込んだ場合: 嘔吐させない。直ちに医師の診察を受けるか、救急病院に搬送する。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状:
上記の応急措置の記述、下記の緊急治療及び必要とされる特別処置の指示に記載されている情報に加えて、重要な症状や影響は項目 11 の有害性情報に記載されている。

緊急治療及び必要とされる特別処置の指示
医師に対する特別な注意事項: 患者に十分な換気および酸素吸入を維持すること。 喘息の様な(反応性気道)症状を起こすことがある。気管支拡張薬、去痰薬、鎮咳薬およびコルチコステロイドが有効なことがある。 特別な解毒剤はない。 ばく露に対する治療は、患者の症状に応じて臨床的処置を行う。 中毒情報セ

ンターや医師に電話する場合、または治療を受けに行く場合は、この安全データシートのほか、できれば製品の容器またはラベルを手元に用意すること。 皮膚接触により既存の皮膚炎が悪化することがある。

5. 火災時の措置

適切な消火剤: 水噴霧または散細水。 粉末消火器。 二酸化炭素消火器。 泡消火剤。 耐アルコール泡消火剤（ATC 型）が適している。一般合成泡消火剤（AFFF 型を含む）やタンパク泡消火剤も機能するが、効果的ではない。

使ってはならない消火剤: データなし

特有の危険有害性
有害燃焼副産物: 火災時の煙には、元の物質に加えて、毒性や刺激性があるかもしれない様々な燃焼生成物が含まれていることがある。 燃焼生成物は以下のものを含むことがあり、またこれだけとは限らない： 窒素酸化物。 フッ化水素。 一酸化炭素。 二酸化炭素。

異常な火災および爆発の危険: 熱い液体に直接放水すると、激しい蒸気の発生や噴出が起こることもある。

消防士へのアドバイス
消火手順: 人々を避難させる。火を隔離して関係者以外の立ち入りを禁止する。 環境に対する影響を最小限にするため、制御焼却を検討する。 制御できない水が汚染を広げるおそれがあるため、泡消火剤が望ましい。 直接棒状放水しない。火災を広げるかもしれない。 人の保護や建物の損害を最小限にするために、燃焼する液体を水で流して移動させることもできる。 可能なら消防水の流出を防ぐ。消防水の流出を防げないと環境破壊を引き起こす可能性がある。 本 SDS の「漏出時の措置」および「環境影響情報」の項を参照する。

消火を行う者の保護: 陽圧式自給式呼吸器(SCBA)および防火服(防炎ヘルメット、コート、ズボン、長靴および手袋を含む)を着用する。 消火活動の際、この物質との接触を避ける。接触の可能性がある場合は、耐薬品性の防火服と自給式呼吸器を使用する。もしこれらがない場合は、自給式呼吸器付き耐薬品性の全身服を使用し、離れた場所から消火活動する。 火災後または火災ではなく清掃時に用いる保護具については、関連の項を参照する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置: 場所を隔離する。 不必要な人や保護具を装着していない人の、その場所への立ち入りを禁止する。 項目 7 の取扱い注意事項を参照。 流出物の風上にいること。漏れたり流出した場所を換気する。 適切な安全設備を用いること。追加情報として、第 8 項、暴露防止及び保護措置を参照。

環境に対する注意事項: 土壌、排水溝、下水道、水路や地下水への流入を防ぐ。項目 12 の環境影響情報を参照。

封じ込め及び浄化の方法及び機材: 可能なら、漏出物は回収する。 少規模の漏洩： 以下の物質で吸収させる： 粘土。 泥。 砂。 掃き取る。 正しくラベルの貼ってある適切な容器に回収する。 大規模の漏洩： 清掃サポートについては、弊社にお問い合わせください。 追加情報として、項目 13 の廃棄上の注意を参照。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い: 子供の手の届かないところに置くこと。 飲み込まない。 眼、皮膚、衣服との接触を避ける。 蒸気またはミストの吸入を避ける。 取り扱った後は十分に洗うこと。 容器を閉じて保管すること。 使用時には換気を十分に確保する。 項目 8 のばく露防止及び保護措置を参照。

保管: 乾燥した場所に保管すること。 納品時の容器でのみ保管する。 使用していないときは、容器の蓋をしっかり閉めること。 食品、食材、医薬、飲料水の近くに保管しない。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度

ばく露限界値が存在する場合は以下に記載されている。ばく露限界が表示されていない場合は適用しない。

化学名	国際規制	リストのタイプ	数値/注記
ソルベント ナフサ	ACGIH	TWA	200 mg/m3 ,総炭化水素蒸気
	Corteva OEL	TWA	100 mg/m3
	Corteva OEL	STEL	300 mg/m3
2-メチルナフタレン	ACGIH	TWA	0.5 ppm
ナフタレン	ACGIH	TWA	10 ppm
	ACGIH	TWA	SKIN
	Dow IHG	TWA	10 ppm
	Dow IHG	TWA	SKIN
	Dow IHG	STEL	15 ppm
	Dow IHG	STEL	SKIN
	安衛法(管理濃度)	ACL	10 ppm
1-メチルナフタレン	ACGIH	TWA	0.5 ppm

製造、混合作業、および包装作業に従事する労働者に対する推奨。散布作業者及び取扱者はラベルを読み、適切な防護具および防除服を装着すること。

曝露防止

工学的制御: 空気中濃度が許容濃度以下に保てるよう制御する。 許容濃度が設定されていない場合、適切な全体換気を行う。 一部の作業には局所排気装置が必要になることがある。

保護具

呼吸用保護具: 許容濃度を超える可能性がある場合は、呼吸器用保護具を着用する。 許容濃度が未設定の場合、認可された呼吸器用保護具を使用する。 特定の作業や物質の空気中濃度の可能性に応じて、空気清浄呼吸器又は陽圧送気マスクを選定する。 緊急時には、認可された陽圧自給式呼吸器を使用する。 以下は効果的なろ過式呼吸用保護具の種類である: 防塵フィルター付き有機ガス用.

手の保護具: 長時間または何度も繰り返し接触する可能性がある場合は、この物質に対し耐薬品性のある手袋を用いること。 望ましい手袋の素材の例: ポリエチレン。 エチルビニルアルコールラミネート(EVAL)。 スチレン/ブタジエンゴム。 許容できる手袋の素材の例: ブチルゴム。 塩素化ポリエチレン。 天然ゴム(ラテックス)。 ネオプレン。 ニトリル/ブタジエンゴム(ニトリルまたは NBR)。 ポリ塩化ビニル(PVC またはビニル)。 バイトン。 注意:特定の用途と作業場での使用時間に適合した手袋を選択するときは、以下に記す要

件をはじめとして、作業上の要件をすべて考慮に入れる必要がある:取り扱う可能性がある他の化学物質、物理的要件(切傷・刺し傷の予防、機敏さ、熱の防護)、手袋の供給業者からの説明書・仕様書。
眼の保護具: 安全メガネ(サイドシールド付)を着用する。 ばく露により眼に不快感がある場合は、フルフェイス型呼吸器を使用する。
皮膚及び身体の保護具: 清潔で、長袖の、全身を覆う衣服を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

外観	
物理的状態	液体
色	白
臭い	芳香臭
臭いの閾値	データなし。
pH	データなし。
融点/ 範囲	データなし
凝固点	データなし
沸点 (760 mmHg)	363 ° C
引火点	**密閉式引火点試験** データなし。
蒸発速度(ﾌﾞﾁﾙｱｾﾃｰﾄ=1)	データなし。
可燃性 (固体、気体)	データなし
爆発範囲の下限	データなし。
爆発範囲の上限	データなし。
蒸気圧	データなし。
相対蒸気密度 (空気=1)	データなし。
比重・相対密度(水=1)	1.02 @20.0 ° C
水溶性	データなし。
n-オクタノール/水分配係数 (log 値)	データなし
自然発火温度	データなし。
分解温度	データなし
動粘度	データなし
爆発特性	データなし
酸化特性	データなし
液体密度	1.05 g/ml
分子量	データなし

注記: 上記の物理データは、代表値であり、仕様として解釈されるべきものではない。

10. 安定性及び反応性

反応性: 通常の使用条件において既知の危険な反応はない。

化学的安定性: 通常使用温度で熱安定性がある。

危険有害反応可能性: 重合は起こらない。

避けるべき条件: 高温にさらされると製品は分解する。

混触危険物質: 以下との接触は避ける： 酸。 塩基類。 ハロゲン類。 金属塩 還元剤。 強酸化剤類。

危険有害な分解生成物: 分解生成物は温度、空気の供給および他の物質の存在による。 分解生成物は以下のものを含むことがあり、またこれだけとは限らない： 一酸化炭素。 二酸化炭素。 フッ化水素。 窒素酸化物。

11. 有害性情報

本項にはデータが存在する場合に毒性情報が記載される。

急性毒性

急性毒性（経口）
誤飲した場合、弱い毒性を示す。 通常の作業での誤飲では傷害は起こらないであろう。ただし、大量に誤飲すると傷害を引き起こすことがある。

製品として。
LD50,ラット,オス,3,883 mg/kg
製品として。
LD50,ラット,メス,2,992 mg/kg

急性毒性（経皮）
製品として。
LD50,ラット,オスおよびメス,> 2,000 mg/kg

急性毒性（吸入）
長期間、ミストに過剰暴露すると有害影響を起こすことがある。 過剰暴露すると、上気道(鼻と喉)および肺に刺激作用を来すことがある。 過剰暴露の症状は麻酔作用ないし催眠作用であると思われる；めまいおよび眠気が認められることがある。
製品として。 LC50 は決められていない。

皮膚腐食性／刺激性
長期間接触すると、局所発赤を伴う皮膚刺激作用を起こすことがある。
皮膚の乾燥および剥離を引き起こすことがある。

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性
軽度に眼を刺激することがある。
角膜損傷は起こらないであろう。

蒸気は軽度の不快感や充血を伴い眼を刺激することがある。

感作性
モルモットでのテストでは皮膚アレルギー反応はなかった。

呼吸器感作性：
関連のあるデータは得られていない。

特定標的臓器毒性、単回ばく露
使用可能なデータの評価によれば、この物質は特定標的臓器毒性（単回ばく露）を示さない。

特定標的臓器毒性、反復ばく露
有効成分について：
動物では、以下の臓器に影響することが報告されている：
腎臓。
肝臓。
胆嚢。

成分の情報による：
ナフタレン蒸気やダストの繰り返し暴露で、ヒトに対し、白内障や他の眼の影響が報告されている。
過剰暴露によって溶血を引き起こすことがあり、従って血液の酸素運搬機能が低下する。
ヒトがナフタレンを経口摂取すると、溶血性貧血が起こった。
動物では、以下の臓器に影響することが報告されている：
消化器官。
甲状腺。
尿路。
肺。
これらの影響が生じる摂取量は、使用中の暴露による想定される摂取量の何倍も高い摂取量である。

発がん性
有効成分について： 動物試験では発がん性はなかった。 いくつかの試験動物で発がん性のあったナフタレンを含有。 ヒトでは、ナフタレン製造に関わる作業員に、発がん性に関する限定的な証拠が認められる。 ラットを対象にした限定的な経口投与試験の結果は陰性であった。

催奇形性
有効成分について： 実験動物において、母体毒性を示す用量で胎児毒性が認められた。 動物試験で、催奇形性はなかった。

生殖毒性
有効成分について： 動物試験では、生殖を阻害しなかった。

変異原性
有効成分について： In vitro での遺伝毒性試験は陰性であった。 動物遺伝毒性試験は陰性だった。 少量成分について： In vitro 遺伝毒性試験では、陰性結果もあったが陽性結果もあった。

誤えん有害性
飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ。

毒性分析に影響を与えるコンポーネント:

ブチル=(R)-2- [4-(4-シアノ-2-フルオロフェノキシ)フェノキシ] プロピオナート(別名シハロホップブチル)

急性毒性（吸入）

長期間暴露しても有害影響を起こすとは予期されない。 入手可能なデータによると、麻酔作用は見られなかった。 入手可能なデータによると、呼吸器への刺激は見られなかった。

LC50, ラット, オスおよびメス, 4 h, 粉じん/ミスト, > 5.63 mg/l この濃度では死に至らない。

ソルベント ナフサ

急性毒性（吸入）

長期間、ミストに過剰暴露すると有害影響を起こすことがある。 過剰暴露すると、上気道(鼻と喉)および肺に刺激作用を来すことがある。 過剰暴露の症状は麻酔作用ないし催眠作用であると思われる；めまいおよび眠気が認められることがある。

LC50, ラット, 4 h, 粉じん/ミスト, > 4.8 mg/l

LC50, ラット, 4 h, 蒸気, > 0.2 mg/l 飽和状態での暴露による死亡は認められなかった。

2-メチルナフタレン

急性毒性（吸入）

粉塵は上部呼吸器官(鼻や喉）を刺激するかもしれない。 過剰暴露による徴候および症状は以下を含む： 呼吸不全

LC50 は決められていない。

ナフタレン

急性毒性（吸入）

過剰暴露すると、上気道(鼻と喉)に刺激作用を来すことがある。 過剰暴露すると、肺障害を来すことがある。 過剰暴露による徴候および症状は以下を含む： 頭痛。 意識混濁。 発汗。 吐き気や嘔吐。

LC50, ラット, 4 h, 蒸気, > 0.41 mg/l LC50 値は、 到達可能な最高濃度よりも大きい。

1-メチルナフタレン

急性毒性（吸入）

LC50 は決められていない。

その他の成分

急性毒性（吸入）

LC50 は決められていない。

12. 環境影響情報

本項にはデータが存在する場合に生態毒性情報が記載される。

生態毒性

魚類に対する急性毒性
物質は、水生生物に対して中等度の急性毒性を示す(試験した種のうち最も感受性の高い種では LC50/EC50 1～10 mg/L)。

LC50,Cyprinus carpio (コイ),96 h,4.26 mg/l

無脊椎動物に対する急性毒性
EC50,Daphnia magna (オオミジンコ),48 h,1.68 mg/l

藻類/水生植物に対する急性毒性
EC50,藻類,72 h,5.32 mg/l

残留性・分解性

ブチル=(R)-2- [4-(4-シアノ-2-フルオロフェノキシ)フェノキシ] プロピオナート(別名シハロホップブチル)

生分解性: 厳格な OECD 試験において、この物質は易分解とは分類されないが、しかしこれらの結果は、この物質が環境中で生分解しないと必ずしも意味するものではない。
10-day Window:不合格
生分解: 40 %
曝露時間: 29 d
方法: OECD テストガイドライン 301B あるいは同等のもの

理論酸素要求量: 1.93 mg/mg

水中での安定性 (半減期)
,7 d

光分解性
大気中半減期: 5.88 h
方法: 測定値

ソルベント ナフサ

生分解性: 生分解は好気的条件 (有酸素) で起こるであろう。 厳格な OECD 試験において、この物質は易分解とは分類されないが、しかしこれらの結果は、この物質が環境中で生分解しないと必ずしも意味するものではない。
10-day Window:不合格
生分解: 30 - 41 %
曝露時間: 28 d
方法: OECD テストガイドライン 301D あるいは同等のもの

2-メチルナフタレン

生分解性: 環境中の分解は遅いと考えられる。

ナフタレン

生分解性: 好気的静的試験条件での生分解は高い。 (BOD20 or BOD28/ThOD＞40%)

理論酸素要求量: 3.00 mg/mg

生物学的酸素要求量(BOD)

培養時間	BOD
5 d	57.000 %
10 d	71.000 %
20 d	71.000 %

光分解性
試験タイプ: 半減期 (間接光分解)
感作性物質: OH ラジカル
大気中半減期: 5.9 h
方法: 推定値。

1-メチルナフタレン
生分解性: 物質は難分解性であると考えられる(環境中)。生分解性に関する OECD/EEC 試験では易分解性にならなかった。
10-day Window:非該当
生分解: 0 - 2 %
曝露時間: 28 d
方法: OECD テストガイドライン 301C あるいは同等のもの

その他の成分
生分解性: 関連のあるデータは得られていない。

生体蓄積性

ブチル=(R)-2- [4-(4-シアノ-2-フルオロフェノキシ)フェノキシ] プロピオナート(別名シハロホップブチル)
生体蓄積性: 生物濃縮の可能性は低い。 (BCF < 100 または Log Pow < 3)
n-オクタノール/水分配係数 (log 値) (log Pow): 3.32 測定値
生物濃縮因子 (BCF) : < 7 魚類 28 d 測定値

ソルベント ナフサ
生体蓄積性: 生物濃縮の可能性は高い。 (BCF＞3000、Log Pow : 5-7)
n-オクタノール/水分配係数 (log 値) (log Pow): 2.9 - 6.1 測定値
生物濃縮因子 (BCF) : 61 - 159 魚類

2-メチルナフタレン
生体蓄積性: 生物濃縮の可能性は中程度。 (BCF : 100-3000、Log Pow : 3-5)
n-オクタノール/水分配係数 (log 値) (log Pow): 3.86 推定値。

ナフタレン
生体蓄積性: 生物濃縮の可能性は中程度。 (BCF : 100-3000、Log Pow : 3-5)
n-オクタノール/水分配係数 (log 値) (log Pow): 3.3 測定値
生物濃縮因子 (BCF) : 40 - 300 魚類 28 d 測定値

1-メチルナフタレン

生体蓄積性: 生物濃縮の可能性は中程度。 (BCF : 100-3000、Log Pow : 3-5)
n-オクタノール／水分配係数 (log 値) (log Pow): 3.87 推定値。

その他の成分

生体蓄積性: 関連のあるデータは得られていない。

土壌中の移動性

ブチル=(R)-2- [4-(4-シアノ-2-フルオロフェノキシ)フェノキシ] プロピオナート(別名シハロホップブチル)

土壌中移動性は比較的小さいと考えられる。(Koc＞5000)
分配係数 (Koc): 5247 測定値

ソルベント ナフサ

データなし。

2-メチルナフタレン

関連のあるデータは得られていない。

ナフタレン

土壌中移動性が中程度である(Koc 150～500)。
分配係数 (Koc): 240 - 1300 測定値

その他の成分

関連のあるデータは得られていない。

オゾン層への有害性

ブチル=(R)-2- [4-(4-シアノ-2-フルオロフェノキシ)フェノキシ] プロピオナート(別名シハロホップブチル)

この物質は、オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書に含まれていない。

ソルベント ナフサ

この物質は、オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書に含まれていない。

2-メチルナフタレン

この物質は、オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書に含まれていない。

ナフタレン

この物質は、オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書に含まれていない。

1-メチルナフタレン

この物質は、オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書に含まれていない。

その他の成分

この物質は、オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書に含まれていない。

他の有害影響

ブチル=(R)-2- [4-(4-シアノ-2-フルオロフェノキシ)フェノキシ] プロピオナート(別名シハロホップブチル)

この物質は、難分解性･生体蓄積性･毒性(PBT)があるとは考えられていない。 この物質は、極難分解性･極生体蓄積性(vPvB)があるとは考えられていない。

ソルベント ナフサ

この物質の難分解性･生体蓄積性･毒性(PBT)は評価されていない。

2-メチルナフタレン

この物質は、難分解性･生体蓄積性･毒性(PBT)があるとは考えられていない。

ナフタレン

この物質の難分解性･生体蓄積性･毒性(PBT)は評価されていない。

1-メチルナフタレン

この物質の難分解性･生体蓄積性･毒性(PBT)は評価されていない。

その他の成分

この物質の難分解性･生体蓄積性･毒性(PBT)は評価されていない。

13. 廃棄上の注意

廃棄方法: 廃棄物や容器の廃棄が製品ラベルの指示通りに行えない場合は、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。 以下の情報は購入時の状態のときのみに適用される。使用後或いは汚染された場合、特性や記載事項が適合しない可能性がある。適切な法律に則ってきちんとした廃棄物の識別と廃棄方法を決める。生じた物質の毒性や物理的性質を決定するのは廃棄物排出者の責任である。内容物や容器を廃棄する場合は、国／都道府県／市町村の規則に従って廃棄する。

14. 輸送上の注意

道路及び鉄道輸送に関する分類 (ADR/RID):

国連輸送名	ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE, LIQUID, N.O.S.(Cyhalofop-butyl,Solvent naphtha (petroleum), heavy aromatic)
国連番号	UN 3082
国連分類	9
容器等級	III
環境危険有害性	Cyhalofop-butyl,Solvent naphtha (petroleum), heavy aromatic

海上輸送に関する分類 (IMO-IMDG):

国連輸送名	ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE, LIQUID,

	N.O.S.(Cyhalofop-butyl,Solvent naphtha (petroleum), heavy aromatic)
国連番号	UN 3082
国連分類	9
容器等級	III
海洋汚染物質(該当・非該当)	該当
MARPOL 73/78 の Annex I または II および IBC または IGC コードに従い積荷を運搬する。	Consult IMO regulations before transporting ocean bulk

航空輸送に関する分類 (IATA/ICAO):

国連輸送名	Environmentally hazardous substance, liquid, n.o.s.(Cyhalofop-butyl,Solvent naphtha (petroleum), heavy aromatic)
国連番号	UN 3082
国連分類	9
容器等級	III

詳細情報:
国連番号 3077 及び 3082 に割り当てられた海洋汚染物質は、液体の場合には単一もしくは内装容器あたりの正味容量が 5L 以下、固体の場合には単一もしくは内装容器あたりの正味質量が 5kg 以下の単一もしくは組合せ容器において、IMDG コードセクション 2.10.2.7、IATA 特別規定 A197 および ADR/RID 特別規定 375 に規定されるように、非危険物として輸送することができる。

この情報は、この製品に関わる特定の法令や輸送上の条件を全てお知らせするものではありません。輸送分類は容器の大きさや国や地域の法令により異なることがあります。追加情報は、弊社の営業担当者またはカスタマーサービスより入手してください。この物質の輸送にあたっては、輸送会社の責任において、適用される全ての法律、規制、規則に従ってください。

15. 適用法令

農薬取締法

消防法
適用なし。

労働安全衛生法
名称等を通知すべき危険物及び有害物
法第 57 条の 2 (施行令別表第 9)

化学名	濃度又は濃度範囲

ナフタレン	>= 3.0 - < 10.0 %
メチルナフタレン	>= 10.0 - < 20.0 %

名称等を表示すべき危険物及び有害物
法第 57 条（施行令第 18 条）

化学名	濃度又は濃度範囲
ナフタレン	>= 3.0 - < 10.0 %
メチルナフタレン	>= 10.0 - < 20.0 %

特定化学物質障害予防規則
第二類物質

化学名
ナフタレン

変異原性の認められた化学物質（既存化学物質）
変異原性物質（既存）

化学名
ナフタレン

毒物及び劇物取締法
適用なし

化学物質排出把握管理促進法
第 1 種指定化学物質

化学名	濃度又は濃度範囲
ブチル＝（Ｒ）－２－［４－（４－シアノ－２－フルオロフェノキシ）フェノキシ］プロピオナート	30 %
メチルナフタレン	10 %
ナフタレン	3.6 %

16. その他の情報

有害危険性評価システム
NFPA

健康	可燃性	不安定性
1	0	0

改訂

ID 番号 : 80350 / 発行日: 2020/10/16 / 版番号: 1.8
DAS コード: XGA-2406
最新の改訂事項は、この文書全体にわたって、左側の余白に太字の二重線で強調してある。

凡例

ACGIH	米国。 ACGIH 限界閾値 (TLV)
ACL	管理濃度、基準濃度
Corteva OEL	Corteva Occupational Exposure Limit
Dow IHG	ダウ社内ガイドライン
SKIN	経皮吸収
STEL	短時間暴露限度
TWA	8 時間、時間加重平均
安衛法 (管理濃度)	作業環境評価基準、健康障害防止指針

その他の略語の全文

AICS - オーストラリア化学物質インベントリー; AIIC - オーストラリアの工業化学品インベントリ; ANTT - ブラジル国家輸送機関; ASTM - 米国材料試験協会; bw - 体重; CMR - 発ガン性、変異原性、生殖毒性があるとされる物質; DIN - ドイツ規格協会基準; DSL - 国内物質リスト (カナダ); ECx - 任意の X%の反応を及ぼすと考えられる濃度; ELx - 任意の X%の反応を及ぼすと考えられる負荷割合; EmS - 緊急時のスケジュール; ENCS - 化審法の既存化学物質リスト; ErCx - 任意の X%の反応を及ぼすと考えられる成長率; ERG - 緊急対応の手引き; GHS - 世界調和システム; GLP - 試験実施規範; IARC - 国際がん研究機関; IATA - 国際航空運送協会; IBC - 危険化学品のばら積運送のための船舶の構造及び設備に関する国際規則; IC50 - 50%阻害濃度; ICAO - 国際民間航空機関; IECSC - 中国現有化学物質名録; IMDG - 国際海上危険物規程; IMO - 国際海事機関; ISHL - 労働安全衛生法 (日本); ISO - 国際標準化機構; KECI - 韓国既存化学物質名録; LC50 - 50%致死濃度; LD50 - 50%致死量 (半数致死量) ; MARPOL - 船舶による汚染の防止のための国際条約; n.o.s. - 他に品名が明示されているものを除く; Nch - チリ規則; NO(A)EC - 無有害性影響濃度; NO(A)EL - 無有害性影響レベル; NOELR - 無有害性影響負荷割合; NOM - メキシコ公式規則; NTP - 米国国家毒性プログラム; NZIoC - ニュージーランド化学物質台帳; OECD - 経済協力開発機構; OPPTS - 化学物質安全性・公害防止局; PBT - 難分解性性・生体蓄積性・有毒性(物質) ; PICCS - フィリピン化学物質インベントリー; (Q)SAR - (定量的) 構造活性相関; REACH - 化学物質の登録、評価、認 可および登録 (REACH) に関する規則 (EC) No 1907/2006; SADT - 自己加速分解温度; SDS - 安全データシート; TCSI - 台湾化学物質インベントリー; TDG - 危険物輸送; TSCA - 有害物質規制法(米国); UN - 国連; UNRTDG - 国際連合危険物輸送勧告; vPvB - 非常に難分解及び非常に高蓄積性; WHMIS - 作業場危険有害性物質情報システム

ダウ・アグロサイエンス日本株式会社 は、お客様や(M)SDS の受領者の皆様が、この(M)SDS の掲載データや、この製品に伴う危険有害性を認識し理解するために、(M)SDS を慎重に検討され、必要に応じて適宜しかるべき専門家にご相談されるようお願いしております。掲載内容は誠意をもって提供したものであり、上述の発効日の時点で正確なものであると考えております。ただし、明示および黙示の保証を行うものではありません。 法令の要求事項は、改正されたり、地域により異なることがあります。使用に関する適用法令の遵守は使用者の責任です。ここに掲載された情報は出荷した製品についてのものです。製造会社は製品の使用条件について関知するところではありませんので、製品の安全な使用条件は、使用者の責任において決定して下さい。 各製造会社固有の(M)SDS などの情報源が増加していますが、弊社は弊社以外の製造会社から入手した(M)SDS に関しては一切責任を負いません。他の情報源から入手した(M)SDS をお持ちの場合や、お手元の(M)SDS が最新版であるという確信が持てない場合は、弊社にご連絡ください。

JP